

令和3年8月15日

## 南の風東京2020オリンピック特集号Ⅲ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

日本女子は予選B組を2勝1敗で2位となり、準々決勝に進出しました。予選B組の結果は次の通りです。日本74-70フランス 日本69-86アメリカ 日本102-83ナイジェリア

(各組の1・2位と、各組3位の上位2チームが準々決勝に進出)

日本女子は、アメリカには敗れたもののナイジェリアには快勝しました。準々決勝は世界ランク6位(オリンピック前の順位)のベルギー戦です。メダルに一歩近づく山場のゲームを迎えます。

戦評を交えながら進めます。

**立ち上がりベルギーが3Pシュートで先制するが、日本もすかさず宮澤が3Pシュートを入れ返す。その後、入れ合いが続く。**

日本は、インテンシティの高いディフェンスで圧力をかけます。ボールマンディフェンスでは、ワンアーム以内にボディアッププレーを制限します。抜かれたときのヘルプ&ローテーションもたいへん素早く対応しています。

また相手のボール運びに対して、ボールマンをラインディレクションし、コフィンコーナーに追い込みトラップを仕掛けます。相手のバイオレーションやパスミスを誘発する戦術です。

ただベルギーも日本のディフェンスに対応し、ヘルプディフェンスで空いた選手へのキックアウトパスから3Pシュートを決め流れを渡しません。

**日本は膠着状態を打破するため、本橋を投入する。直後、本橋のドライブに長岡が合わせシュートが決まる。両者譲らず、第1Qが終了 (日本19-16ベルギー)**

**第2Qは林の3Pシュートから始まる。**

林選手は、自らが右センターラインからのスローインの後、逆サイドのショートコーナーの赤穂選手にスクリーンに行き、そのまま左ウイングに上がり、宮澤選手のスクリーンを利用してトップの位置でフリーとなり3Pシュートを決めます。見事なフォーメーションからの得点でした。

**その後、宮澤選手の3Pシュートが2本続けて決まる。**

一本目は、林選手の3Pシュートのリバウンドからのパスを受け、左ウイングからのシュートでした。二本目は、ディフェンスリバウンドからの速攻時に、走った宮澤選手へ町田選手がタイミングのよいパスを通し、右ウイングからフリーで打ち見事決まりました。

**この時点で、日本30-18ベルギーと日本が突き放しにかかる。ベルギーがタイムアウト。**

**タイムアウト明け、ベルギーが連続して得点する。**

日本はディフェンスの強度を緩めず、ベルギーのボール運びに圧力をかけます。しかし林選手のやや強引なパスカットが空振りし、左コーナーからの3Pシュートが決まります。続けて日本のプレス気味のディフェンスのズレを見逃さず、2Pのジャンプシュートも決めます。さらにベルギーは、ディフェンスリバウンドから2メン速攻からゴール下シュートを沈めます。さらにさらに、オフェンスの足が止まった日本の虚を突き速攻から3Pが入り、連続10得点を奪います。日本はたまたまタイムアウトです。

日本はオフェンスの流れが悪く足が止まり、ディフェンスの対応にも影響がでていました。

日本は本橋をと東藤を投入する。本橋の切れ味の良い左ウイングからのドライブが決まる。直後にボールマンにプレスを仕掛ける。東藤の足と体を張ったディフェンスでショットクロックを潰し、ベルギーのタフショットを誘った。その結果、リバウンドからの速い運びから本橋のトップからの3Pシュートが決まった。

タイムアウト後のプレーが、ベルギーの流れを一旦止めることとなります。東藤選手の力強いディフェンスと、本橋選手の積極的なシュートが光りました。

しかしベルギーもすぐさま反撃します。

日本の長岡のシュートが落ちるとリバウンドからの速い展開から右コーナーにボールを落とし3Pシュートを決める。この後パスミスから続けて3Pが決まる。さらに東藤のドライブシュートが外れると、リバウンドからの速いボール運びから三度3Pを決める。(日本35-37ベルギー)

長岡選手と東藤選手のドライブシュートは、どちらも積極的なチャレンジでよかったのですが、相手の高さが気になりリリースが早くなってしまいました。惜しかったです。

そこに付け込み、ベルギーは速い展開から3本の3Pシュートを立て続けに決めました。

流れを変えたい日本は、長岡がローポストでのターンからのステップインシュートを決める。すぐさまベルギーは、日本のリバウンドミスからゴール下シュートがバスケットカウントとなり、フリースローも決める。直後日本は、エブリンがドライブでファウルを誘いフリースローを1本入れる。日本はベルギーパスミスターンオーバーから、高田からのパスに合わせた林が右ウイングから3Pシュートを沈める。(日本41-40ベルギー)

ベルギーは速いボール運びからドライブでペイントに入り、エンドラインから合わせた選手がシュートを決める。ここで第2Q終了(日本41-42ベルギー)

両者譲らず、緊迫感のあるゲーム展開でした。日本はリバウンドに絡んでいますが、掴んだ後の球際を確実にしないと保持できません。また、ドライブのシュートの精度をあげたいことと、フリースローが雑にならないことです。

3Qはベルギーのペリメーターからのジャンプシュートを皮切りに、一進一退の攻防となるが、ベルギーがトランジションの速攻を絡め、徐々に点差を広げる。シュートの精度もこのクォーターはベルギーが上回る。日本45-58ベルギーと最大13点差に広がる。ここで食らいつきたい日本は、本橋が3Pシュートを決め、さらにドライブでファウルをもらいフリースローを2本決める。その後も赤穂のドライブシュート、高田のポストでのターンシュート、町田のドライブからチェンジオブペースしてのシュートが決まりついていく。終了間際に町田のドライブに対してベルギーがファウルする。フリースローを沈めて3Qが終了。(日本61-68ベルギー)

ベルギーの11番ミスマンの精度の高いジャンプシュートやフェーダウエーシュート、また積極的なリバウンドが光ったクォーターであった。

3Qは流れがベルギーにありました。日本が何とかついて行った感じでした。相手のスクリーンに対して、スイッチするかどうかの迷いや、スイッチによるミスマッチをつかれる場面がありました。また、相手にディフェンスリバウンドを取られた後の、トランジションディフェンスの戻りとピックアップが遅く、フリーの選手をつくってしまうことが起こりました。

4Qではディフェンスの強度を上げ、スクリーンに対する確認をし、リバウンドがカギを握ると思います。次号では、いよいよ運命の第4Qを迎えます。